Jao ニュース

３８０号　２０２３年７月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
ＵＲＬ　https://jaoclub.com/

事務局だより

１．６月１日現在会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
40	38	30	29	137 名（E グループ会員：124 名）

退会　杉本 明氏（湘南）2023 年 3 月 23 日ご逝去
入会　田邉 修氏（湘南）、二宮 利宏氏、坂井 靖夫氏、萬豆 哲夫（はず てつお）氏（県央）、馬場 駿健（ばば としかた）氏（多摩・田園）

２．運営委員会より報告

運営委員の業務分担と運営委員会の開催予定について、メールにて打ち合わせ、下記のように決しました。

1）新年度運営委員の業務分担
次のように決定しました。詳細は、次回の運営委員会で協議します。

担当	正	副	備考
代表	大澤委員	竹内委員	
総会担当	大澤委員	竹内委員 安田委員 増子委員	
運営委員会	福山委員	永井委員	一部業務は竹内委員と安田委員が補佐する。
じゃおニュース	編集担当：竹内委員	掲載担当：安田委員	従来のとりまとめ担当は編集担当が兼任する。
会員管理	高橋委員	竹内委員	
会計	石井委員		
ホームページ	竹内委員	安田委員	
監事	島村監事・土屋監事		

2）今年度の運営委員会開催予定日
7 月 23 日(日)、9 月 24 日(日)、11 月 26 日(日)、2024 年 1 月 21 日(日)、2024 年 3 月 24 日(日)
時間は 10:00～12:00 で、原則としてオンライン開催です。
※　議長・書記は、運営委員による回り持ちです。
※　月末開催であることを考慮して、じゃおニュースと予定表の発行目標は 5 日とします。

3）今年度より総会と運営委員会の議事録は電子ファイルにて保存し、紙媒体での保存は廃止します。

２．次回の運営委員会
日時：　2023 年 7 月 23 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：　石井委員　　書記：　大澤委員

会員だより

お城巡りと観光名所の旅

県央　星野　道雄

今回 jao クラブの会員便りへの執筆依頼があり、何を話題にしたら良いか迷っていましたが、よもやま話を寄稿したいと思います。

私は、会社勤めの時代から旅行に出かけることを楽しみにしており、年齢と共に海外への旅行は取り止め、現在は国内のお城巡りと各地観光名所を中心に旅を続けています。

新型コロナのパンデミックからはステイホームが続き中々外出することが出来ませんでしたが、今年 5 月に島根県は 3 回目となる訪問で松江市の国宝・松江城、縁結びの神様を祀っている古社の出雲大社と安来市にある日本が誇る美しい日本庭園と近代日本画史に不滅の足跡を刻む横山大観の名品が数多くコレクションされている足立美術館を訪れました。

出雲大社（いずもおおやしろ/いずもたいしゃ）の神社は、全国の神々が 10 月に集まることで神無月と呼ばれる由来があり、また、拝殿の西側、荒垣外に位置する神楽殿（かぐらでん）にある正面破風下に張られた長さ約 13 メートル、重さ 5.2 トンの大注連縄が有名です。

足立美術館

足立美術館は初めての訪問でとても楽しみにしておりました。当美術館は、世界一の日本庭園と評され、面積は 5 万坪に及ぶ広大な敷地があります。絵画だけでなく庭園は絵画にも勝る素晴らしい景観で感動する一言です。

次のお城について、現在国内で見学できるお城は 200 ほどありますが、昨年のお城巡りではユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されている姫路市の姫路城、国宝である岡山市の岡山城、国の重要文化財である高梁市の備中松山城を訪れました。

姫路城は、白鷺城（「はくろじょう」や「しらさぎじょう」）と呼ばれどちらの読みが正しいかはっきりしていませんが、白漆喰で塗られた城壁の美しさは見事です。

備中松山城は、天守が日本の中では最高峰 430m に築城されている山城で別名が高梁城と呼ばれ、住み着いている猫城主の「さんじゅうーろー」がお城前で出迎えてくれるのは有名です。杖を使っての山登り行程でお城まで辿り着くまで大変な思いをした記憶が残っています。

松江城

その点、今年訪れた松江城は JR 松江駅からも近く交通には便利な位置にある平山城であり、現存天守からは宍道湖を眺望することができ、また、遊覧船で堀を周回しながら観光する堀川めぐりが楽しめるなど魅力がいっぱいです。

全国各地には未だ未だ多くの戦国時代のお城が残っております。これからも国内の名城を訪れて記憶の歴史に積み上げていきたいと思っています。

70 歳過ぎてのアルバイト

県央　佐賀県小城（おぎ）市小城町在住　前田　康行

NPO 法人「ふるさと回帰支援センター」のつてで地元に仕事が見つかって、それをきっかけに故郷佐賀県に移住して一年が経ちました。生まれ育った土地とはいえ、両親はとっくに亡くなり、親が亡くなったと同時に実家も売り払いましたので帰る家があるわけでもなく、まず住処を探すという文字通り一から移住の形で帰郷したのですが、こちらに来てからは、毎日出かける仕事があり、その仕事もフルタイムではないので時間に余裕があって、仕事から帰ったら畑仕事、な～んて、思い描いていたリタイア後の姿にほぼ近い生活を送ることができて、思い切って移住してよかったなあとしみじみ。

仕事先は、地元佐賀大学医学部の社会医学講座環境医学部門の研究室で、月曜から金曜日まで毎日 4,5 時間程度アルバイトとして研究のお手伝いをしています。現役時代は一貫して実験研究を仕事にしていましたので、今、70 歳過ぎて大学の実験室で日々を過ごせるということは本当にうれしいですねえ。まだ目も大丈夫ですし、手も動きますので、ピペット握ったり、試験管振ったりといった実験をやりたいところですが、それは若い人がやりますので、私の役割はそういった若い人たちのお手伝いです。一応、経験に基づいて教育・指導をする立場ということになってます。人手が必要な時には実験に加わりますが、実験操作には大学それぞれの流儀があって、pipetting（試薬の分注作業）ひとつとっても、自分の行ってきたやり方とは異なるなんてことがあったりするんで、しゃしゃりでることなく、できるだけ控えめな態度でこの研究室のやり方に馴染んでいくようにしています。また、この研究室は、遺伝子組み換えマウスを保有していますので、その管理のお手伝いもしています。動物のハンドリング、交配、妊娠・分娩の管理、新生児の扱い（離乳・雌雄鑑別）、麻酔や採血、解剖などは元々私の専門でしたので、この点については私なりのやり方を教えるようにしています。とはいうものの、アルバイトの身ですからね、押し付けるのではなく、あくまでもお手伝いとして、できるだけ皆さんの足を引っ張らないように、を常に心がけています。それにしても、70 歳を過ぎて再び研究の現場で実験動物に接することができるなんて、リタイアした時には思ってもいませんでした。こういう場を与えていただいた現研究室の先生やメンバーの方々に感謝,感謝です。

とまあ、周りのいろんな方々のおかげで楽しく働かせていただいております。さらに、最年長者として、研究室の皆さんが働きやすい職場の雰囲気を作るのも私に課せられた役割だと自覚してもいますので、誰とでも気兼ねなく優しく接するよう心配りも。ただこんなんで本当に研究のお役に立てているんかなあ、よーわかりません。今のところは雇い主の先生から首と言われないのでとりあえず認めてもらっているというところでしょうか。

朝天気予報を見て雨が降らないようなら自転車で、12km を 1 時間かけて大学まで通っています。今まさに田植えの時期、一面の田んぼを眺めながらの快適できつい通勤です。

もう一つのコーラス

ベイサイド　前田　義春

2013 年 7 月に私が参加した会合で新藤さん、宮松さんに誘われ「じゃおグリークラブ」に入会しました。その後「じゃお」にも入会し今日にいたっております。

今日はもう一つの加入しているコーラス団体の話です。団体名は「K‘s Factory（ケーズファクトリー)」と称して横浜市栄区、港南区、戸塚区を中心に住まいの男女 30 余人で構成しゴスペル、ポップスを中心に歌っています。入会のきっかけは、毎朝のラジオ体操で「新しい朝が来た♪希望の朝だ♪・・」を歌っていると声をかけられ、2014 年 5 月に入会しました。

コーラスはお腹から声出しすることで健康にも良いし、聞いていただける方々に喜んでいただけることが喜びにもなります。年に何回か、地区のイベントに参加し発表の場を得ております。　大きなイベントとして 2015 年 4 月、2019 年 4 月に地元栄区のリリスホールを借り切って「K‘s Factory」のコンサートをやってきました。そして昨年、2023 年が 10 周年となり記念コンサートを実施することが決定しておりました。気楽に運営委員の片棒を担いでいましたが総責任者が病気で休会となり以前から打診のあった総責任者を引き受けることとなりました。

さあ、大変なことです。これから難儀したこと、今後苦労が予測されることを書き出してみます。

難儀したことは、会場の予約です。前 2 回のコンサートを開催したリリスホールは、6 ヶ月前予約のルールで、2023 年 11 月末予定では間に合いません。リリスホール責任者と会合を重ね、「優先的予約の申請があれば」の言質を取って、2022 年 12 月 24 日に優先予約申請を行いました。結果は 2023 年 4 月 18 日に承認書を頂きました。ルール上承認が遅くなると聞いていましたがやきもきしました。

一般的な発表会に参加の場合は主催者がいて、段取りは主催者がすべて行いますから安心して参加できますが、今回は私達が主催者です。すべての準備は私たち K‘s Factory がやるのです。

1. 2 ヶ月前までにやること
   - 開催チラシの作成と配布（会員にグラフィックの得意者がおり委託）
   - 入場整理券の発行（前回 300 人定員が満員となり入場できない人の打開策）
2. 1 ヶ月前までにやること
   - リリスとの詳細打合せ（舞台のレイアウト、照明、音声、ピアノ調音予約）
   - メンバーの役割分担表（受付、誘導、影アナ、記録、終了後の打ち上げ担当等）
3. 前日の準備
   - 会場の設営（使用する舞台道具を搬入、設営）
4. 当日
   - 来場者を混乱なく会場へ誘導

以上のようなことが想定されますが、これも使命だと前向きにとらえ成功に向けて頑張りたいと思います。

じゃお湘南

農園日記　2023.5.27 ボランティア

5 月 27 日(土)、農園参加者は 23 名。1 号畑と 2 号畑に 2 班に分かれて作業することになりました。1 号畑の班は玉葱と長葱の収穫と人参畑の除草、それが終わったら、農家の宮治満さんのお手伝い。2 号畑の班は「落花生の種植え」を行います。人参は 4 月 29 日(土)に種まきをしてから 1 か月経過したので、雑草との区別がつきやすくそれでも慎重に除草作業を行いました。

じゃお農園 1 号畑の近くには、「小出川」が流れています。藤沢市北部に位置する初秋の「遠藤地区」「打戻地区」の川沿いには長さ 3 キロにわたり群生する数万株の「彼岸花」が咲き誇り、毎年 9 月下旬から 10 月上旬にかけて「小出川彼岸花まつり」が開催され多くの観光客が訪れます。（左写真）地元野菜の販売や模擬店も開かれます。彼岸花を毎年咲かせて「おまつり」を続けられるのは地元の住民の皆さんの努力と郷土愛の賜物です。宮治満さんは「小出川彼岸花まつり実行委員会」の顧問です。このお祭りは藤沢市 3 地区及び茅ヶ崎市 1 地区計 4 地区の持ち回りで実施されています。

今回じゃおクラブが宮治満さんから頼まれたお仕事は「彼岸花の球根の植え付け」です。今回の植え付け場所は小出川彼岸花まつりの場所ではなく、宮治満さんの畑の土手でした。事情があって整地をしたのですが、あまりにも殺風景なので彼岸花を植えてきれいにしたい、そして地域の景観を良くしたいと考えたそうです。過去にカメラマンが宮治さんの畑の土手に群生する彼岸花の撮影に訪れ、その写真が「小出川彼岸花まつり」の発端になったそうです。

当初、宮治さんから作業の依頼にあたって有償でのお申し出がありましたが、熱く語る宮治さんの意気に感じた私達は、地域に貢献したい気持ちから無償でお引き受けすることにしました。

土手面は大きく高さ 2m×長さ 90m でした（右写真参照）。作業は「①土手面の上下に 50cm 間隔で 2 か所に球根を入れる深さ 10cm の穴を掘る。②同じく横に平行に穴を掘り 3～5 個の球根を入れてしっかりと覆土する。」の手順で行いました。土手面は高く、とても硬かったので決して楽な作業ではなかったのですがじゃおの男達が人海戦術を使い、約 1 時間で 90m の土手面を植え終わりました。今年の秋には立派な花をつけることを念じながら、やり終えた達成感を味わいました。宮治さんから頂いたキャベツはとても旨かったです。宮治さん　ご馳走様でした。

（湘南　島村　忠男　記・写真）

じゃお県央

ボウリング

ボウリングと言えば今から半世紀以上前の話ですが、当時ボウリングが流行っていて各地にボウリング場が林立？していました。僕の勤めていた会社の近くにも出来ました。その通りを挟んで小さな仕出し弁当屋さんが有りました。その弁当屋さんは明石屋と言いました。するとその弁当屋さんは「レストランアカシヤ」に店名が変わって驚いた事を思い出します。あのボウリング場とレストランは今どうなっているのでしょうか？さらに話しはそれますがアカシアについて、ヨーロッパ等では3月8日を「ミモザの日」として女性に感謝を込めてミモザの花を贈るそうですが、ミモザはアカシアの仲間の花を総称した名前の様です。石原裕次郎の歌「赤いハンカチ」のアカシアはニセアカシアでアカシアとは別物です。また「Mimosa」の学名を持つ植物が有るそうですが、それはオジギソウと言われる植物で触れると葉を閉じる事からの名前です。ちなみに花の色はミモザが黄色、ニセアカシアが白色、オジギソウが桃色です。

じゃおクラブ県央、ボウリングに5年ぶりに参加致しました。日時は6月7日、10:30で参加者4名でした。場所は町田市のラウンドワンです。前回は団体の予約が入っていたとかでボウリング場は満員、2時間待ちであきらめました。今回担当者は予約を取っていたようですが、すぐゲームが出来ましたがほぼ8割方埋まっていました。ゲームを始める前に申し込み、設定がありデジタルで一歩一歩確実に行うことを要求されます。アナログ人間にはかなりハードルが高い作業です。そしてゲームです。まずボールです、軽いボールを探しましたが穴が小さくて指が入りませんでした。今日のボウリング場はすごい音を立てていました。ボールの落ちる音です。今はダイナミックにボールをレーンに投げ落とすのが主流と思うくらい左右の人は放り投げていました。我々は上品に時々溝の清掃等行いながら進めました。スコアーも自動で付けられるので、今何ピン倒れた等、身を伸ばして確認する必要も無くゲームに集中出来ました。

2ゲーム行いました。僕は2ゲーム合計で200点オーバー、担当者以外似たり寄ったりのスコアーだったと思います。次回は1ゲーム200点目指して頑張ります。

久しぶりのボウリングでしたがすごく楽しかった。昼食は近くの「KIRIN CITY」で取りました。ここでも紙のメニューの代わりにタブレット端末が置いてありました。アナログ人間にはそのうち遊びも食事も出来なくなりそうです。まずビールで乾杯して久しぶりの外食を終えました。

ボウリングと言い食事と言い本当に楽しい一日でした。

（県央　原　建吾　記・大場　幸雄　写真）

じゃお多摩・田園

都電荒川線でレトロな雰囲気を満喫～グラファーズ撮影会～

今回は、6 月 6 日に行われたグラファーズ撮影会の様子をお伝えします。都電荒川線を撮るのは初めてでしたが、ちょっとしたハプニングもあって、一日を楽しく過ごしました。

午前 11 時半、この日のメンバー5 人は山手線の大塚駅に集合しました。大塚駅で電車を撮影してから、昼食のために都電荒川線で三ノ輪橋まで移動しました。

お昼のお目当ては、蕎麦の名店「砂場総本家」です。おかみさんから、大正 4 年に麹町で創業し、その後、現在の地に移転したと聞かされました。まさに老舗ですね。「蕎麦前」として日本酒やビールと板わさで軽く一杯やった後、蕎麦を注文しました。「のびないうちにどうぞ」とのおかみさんの言葉に、早速そばを手繰りました。香りの良い蕎麦と独特の少し甘めの汁に老舗を感じながら味わいました。

蕎麦を食べ終わったところに店主が登場しました。どうやら店内にある模型の電車がご趣味のようで、都電荒川線や江ノ電など、次々と走らせて見せてくれました。（写真：趣ある砂場総本家の前で）

その後は、商店街「ジョイフル三ノ輪」を抜けて、再び都電荒川線で王子駅へと戻ります。撮影の狙いは、一般道を路面電車とクルマが混在して走る区間でした。

途中で立ち寄った音無親水公園では思わぬ出会いがありました。一人の外国人女性が私たちに声をかけてきたのです。片言の日本語で意味がわからないし、英語も通じないのですが、どうもかなり酔っているご様子。陽気な彼女に驚いた 5 人でした。

都電荒川線の撮影を堪能した後は、庚申塚まで行き、地蔵通り商店街から巣鴨のとげぬき地蔵へと歩きました。この頃から、その後の「反省会」が気になりだしたメンバーがいたので、通り沿いの「巣鴨ときわ食堂本店」へ入店しました。お店は食堂と名乗っていますが、昼飲みもできます。たこぶつが気に入った人、アジフライが気に入った人など、いろいろでしたが、「巣鴨ときわ食堂本店」おすすめですよ。

初めて訪れた都電荒川線沿線、中でも私には路面電車とクルマが混在して走る区間が印象的でした。そこには、電車の音や都会の喧騒と共に下町の懐かしくも親しげな雰囲気が存在していました。（写真：飛鳥山交差点を行く都電荒川線）

グラファーズでは、撮影した写真を月替わりでホームページに掲載しています。ぜひ、ご覧ください。
https://jaoclub.com/tama-denen/gallery/　　（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）